

大学院国際文化研究科の学生が、第12回ブラジル日本研究 国際学会のポスター発表部門で優秀賞を受賞しました。

2018年8月28日-30日、第12回ブラジル日本研究国際学会（ブラジル・サンパウロ州カンピーナス大学）において、本学大学院国際文化研究科日本文化専攻博士前期課程1年の加藤希さんが、ポスター発表部門で優秀賞を受賞しました。加藤さんは現地の研究者等を前に、研究内容についての解説や質疑応答などを行いました。

該当の研究は次のとおりです。

受賞者氏名：加藤 希^{かとう のぞみ}（愛知県立大学大学院 国際文化研究科日本文化専攻博士前期課程1年）

発表内容：「天の浮橋」から「夢の浮橋」へ

研究概要：源氏物語の最終巻名「夢の浮橋」が、記紀神話（『古事記』『日本書紀』）の「天の浮橋」のイメージが踏まえられているという論説に関する考察と、同時期の和歌などに詠み込まれた「浮橋」にも共通してみられる〈一方通行性〉について分析したものです。

参考：第12回ブラジル日本研究国際学会 Web サイト

<https://www.cel.unicamp.br/congresso/index.php>

